桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校

校長　大塚　潤

挑戦しよう　努力しよう
互いの夢を語り合おう

ラストスパート

３年生は、これから先、入試が近づくにつれて不安のために気持ちが揺れ動くこともあります。**「安定した気持ちと生活で学習に集中してほしい」**これが校長先生の願いです。

逃げや言い訳をしていては時間ばかりが無駄に過ぎて、結局自分に結果が返ってきます。前を向いて、自己実現に向かってラストスパートです。

個人によって入試日程や受験方法などの条件は様々ですが、学年全体の仲間意識と３年生らしい結束力・団結力で不安を乗り切っていきたいものです。

「きれいなまちづくり運動」がんばりました！

根を伸ばせ

ある生徒の作文を１つ紹介します。

◆最近やっと勉強が軌道に乗り出した。もう１２月。高校入試まであとわずか。ちょっと遅いけど、まだまだこれからだ。

１学期のことを思うとずいぶん気持ちが落ち着いている。あの頃はどうしても勉強する気が出なかった。机の前に座ってもすぐ他のことを考え、気持ちの集中ができなかった。勉強が嫌になり、スマホやゲームに逃げてしまう日々が続いていた。

でも今は違う。あのラジオのおかげだ。ある対談をぼんやり聞いていたら、次のような言葉が耳に入ってきた。

「毎日の生活の中で、自分の意思で変えることを決め、それを実行することだ」と。よし、僕も何か自分で決めて実行してみようと思い、いろいろ考えた。そして「どんな日でも８時から１２時までは必ず机の前に座ろう」と心に決めた。今日まで１ヶ月続いている。最初はかなりつらかった。机の前に座っても勉強はあまりはかどらなかった。身体が疲れていて本当に嫌な日もあった。ゲームやスマホで遊びたい日もあった。でも、毎日実行しているうちに、少しずつペースに乗るようになった。すると不思議にスマホもゲームも気にならなくなった。勉強も嫌ではなくなってきた。メディコンルールも守れるようになってきた。毎日の生活に張りが出てきた。授業にも集中できるようになった。このペースを入試まで絶対に守っていくつもりだ。

１・２年生も普段から授業を大切にして、家庭での学習習慣をしっかりと身に付けましょう。

本校生徒　様々な分野で大活躍！

１　ＫＴＮ杯長崎地区中学生陸上競技新人大会
　女子１年２００ｍ　第１位　３０秒０４
　　第３位　３１秒４１
　男子共通ジャベリックスロー第３位３２ｍ９１
　女子１年４×１００ｍ　第３位　５６秒８５

２　長崎市陸上競技選手権大会
　女子中学１００ｍ　第１位１２秒７０
　女子中学１００ｍＨ　第１位１５秒３６
　女子中学走高跳　第１位　１ｍ４５
　女子中学８００ｍ　第１位　２分４４秒５３
　女子中学４×１００ｍ　第１位５３秒２９

　男子中学砲丸投　第２位　９ｍ４３
　男子中学走り幅跳　第２位　５ｍ５９
３　バドミントン競技新人大会　女子団体　第３位
４　第２回長崎消毒社杯争奪ソフトテニス競技
　中学男子の部２位トーナメント　優勝
　中学女子の部２位トーナメント　優勝
５　長崎県中学生ビブリオバトル大会長崎市代表選考大会
　優秀賞　（１２月１０日に実施される県大会に出場します）
６　全日本剣道連盟　昇段試験　初段

花の咲かない寒い日は
下へ下へと根を伸ばせ
こつこつこつこつ
こつこつこつ
やがて芽が出て
花が咲く
（宗道和尚）

じんけん　よもやまばなし

国際連合は、昭和23年（1948年）第3回総会で世界人権宣言が採択されたのを記念し、昭和25年第5回総会において、世界人権宣言が採択された12月10日を「人権デー」と定めるとともに、全ての加盟国にこれを記念する行事を実施するように呼びかけています。

我が国では、法務省と全国人権擁護委員会連合会により、「人権デー」を最終日とする1週間（12月4日～10日）を人権週間と定め、「世界人権宣言」の意義を普及するための各種啓発事業を実施しています。

昨年度も紹介しましたが、今号は、私が30数年の教職生活の中で出会った尊敬するある大先輩からいただいた「じんけんよもやまばなし」を紹介させていただきます。ご家庭で、「じんけん」について語り合うきっかけにしていただければ幸いです。

◆1　立場の違い

妻が珍しく病気で寝込んでしまいました。夫が学校に出勤しようとするとき、妻がすまなさそうに言いました。「ごめんなさい。今晩の夕食は作れそうにもないわ。」

夫は、「わかった。無理すんなよ。俺は外で済ませてくる。」と答えて仕事に向かいました。

夫は思いやりのつもりでしたが、妻は悲しくなりました。夫は、妻の夕食をどうするかなど考えてもいなかったのです。

「2人分、何か買って帰るよ。」たったこれだけのことなんですが・・・。

◆2　コミュニケーション

私がAさんと歩いていたときのこと。

私達は、横断歩道にさしかかりました。彼は全く目が見えません。当時（20数年前）、音の出る信号機が設置され始めた折、その横断歩道も童謡のメロディーがなりました。

「便利になりましたね。」と私が言うと、Aさんは次のように答えたのです。

「はい。でも、寂しくもなりました。便利さと引き換えにこれまでのように人の手で渡ることがなくなりました。」

「はっ」としたのを覚えています。

◆3　木の皿

昔、夫婦と老人と4才になる子、4人が一緒に住んでいました。老人は年をとって食べ物をこぼし、汚く汚すようになりました。

そこで夫婦は、老人をテーブルではなく、物陰で食べさせることにしました。老人は涙をためため息をつきましたが、何も言いませんでした。

老人はますます年をとり、手が震えて不自由になりました。そして、陶器の食器をある日落として壊してしまいました。

夫婦は、これからも壊されてはかなわないので、老人には粗末な木の皿をあてがうことにしました。

しばらくして、4才の子が木片を刻んでいるのを夫婦が見つけました。「坊や、何しているの？」「木でお皿を作っているの。僕が大きくなる頃はパパもママも年をとるだろう。これでご飯を食べさせてあげるの。」

夫婦はびっくりして、老人を元通りテーブルにつかせ、陶器の食器で食事をさせることにしました。

「グリム童話集」より

◆4　「はだいろ」ってどんな色？

アメリカでは、肌の色のクレヨンが10本程度のセットで販売されています。日本では「はだいろ」は1本です。少し前ですが、あるメーカーは「はだいろ」という表示を「ペールオレンジ」に変えました。

「肌の色とはこんなものだ」「大半の人に当てはまればよかろう」「昔から決まっている」こんな考えが見直されつつあります。

幼い頃から、家族や友達、働く人々、世界の人々など、それぞれ違った人たちの肌の色をしっかりと見て、それに合った色を選んで書かせたいものです。

◆5　これってヘン？

よく使われる言葉ですが、「男」と「女」を入れ替えてみると、「おやっ？」と思う言葉を紹介します。

（「妻」は「夫」に入れ替え）

○男前○男勝り○女だてらに○才女○子女○女社長○女医○女流～○愚妻○良妻○男は度胸、女は愛嬌

「女へん」の漢字にも、家に入る女で「嫁」、ほうき専門の女で「主婦」など。「主人」は男性。「未亡人」（まだ亡くならない人？）は女性に決まっているようです。一方、「母」は、「母校」や「母国」などのように使われます。

◆6　シャンプーとリンス

目の不自由な女の子がいました。お風呂で時々、シャンプーとリンスを間違えてしまいます。見かねたお母さんがシャンプーを作っている会社に手紙を書きました。「困っているのは娘だけではないはずです。何か工夫できませんか？」

手紙を受け取った会社はすぐに検討を始めました。検討の結果、容器にギザギザをつけることにしました。そして、あえて特許の申請をしなかったのです。ですから他のメーカーも特許なしに同じギザギザをつけ始めました。おかげで消費者はメーカーによって違う区別の仕方を見分ける必要がなくなったのです。

頭からお湯をかぶっているときは、目が不自由でなくてもギザギザは便利なもの。長崎でも、床の低いバスや電車が走っています。車椅子でなくても赤ちゃんや幼児連れ、お年寄りや荷物の多いとき、便利なものです。

◆7　童謡の教え

♪シャボン玉　とんだ　屋根まで　とんだ　屋根まで　とんで　こわれて消えた・・・

作詞した野口雨情は、長女をわずか8日間の命で亡くした。「かぜかぜ吹くな」の親心がなんとも切ない。大人がまず守るべきは子どもの命。

♪　咲いた咲いたチューリップの花が　並んだ　並んだ赤白黄色・・・

人間もそれぞれに色（個性）があるからきれい。しかも、集団の中でこそ光る。「どの花見てもきれいだな」

♪　ぞうさん　ぞうさん　お鼻が長いのね　そうよ　母さんも長いのよ

「他の人と違ってたっていいじゃん。お母さん譲りの自慢の鼻よ」2番の歌詞では、「そうよ母さんが好きなのよ」と言い切る。いじめなど寄せ付けない母象の賢い子育て。

歌い継がれた童謡にも貴重な教訓があるようです。